

馬場記念病院 脳神経外科 後期臨床研修プログラム

1. 研修期間

脳神経外科専門医を受験するまでの4年間を基本とする

2. 到達目標

- ・脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患などの診断、手術を含む治療に関する現行の知識と技術を習得する。
- ・脳神経外科疾患の重症患者をとおして、①生命維持に直接影響を与える呼吸、循環、代謝の管理、②頭蓋内圧の管理、③意識障害を有する重症患者の集中治療管理等について習得する。
- ・脳神経外科手術の術前・術後管理と術後合併症に対してもその対策を迅速かつ的確に実施できる様に訓練を積む（周術期管理）。
- ・脳神経疾患に対する基本的な薬物療法、放射線治療等を習得する。
- ・院内症例検討会などの各種カンファレンスに積極的に参加する。
- ・各種の脳神経外科関連学会、地方会、研究会、研修会等への積極的参加とともに、症例報告、臨床研究、基礎研究等の発表、論文の執筆に努める。

3. 指導体制

研修責任者：部長 金本 幸秀

4. 年次別循環器科研修カリキュラム

【1年次】

上級医とともに、入院患者の主治医として診療にあたり、診断・治療の過程で必要な各種専門的検査の知識、技能を修得するとともに、適切な治療法を選択できるようになることを目標とする。なお、1年目の一定期間、麻酔科で脳神経外科手術の麻酔管理を中心にその基本的手技を習得する。

(患者管理)

- ・ベッドサイドでの神経学的診断
- ・脳神経外科患者（脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷など）の一般的管理
- ・救急脳疾患に対する対応処置の習得、気管内挿管やCVPライン確保、腰椎穿刺などの基本手技の習得

(検査)

- ・神経画像診断（頭蓋・脊椎X線、CT、MRI、脳血管撮影、SPECT、脊髄造影など）の習得
- ・脳血管造影（セルジンガー法）、脊髄造影等の技術の習得
- ・頸部血管超音波検査の習得
- ・神経生理学的検査（脳波、筋電図、各種誘発電位など）の習得

(手術)

- ・基本的脳神経外科手術の適応についての判断

- ・基本的手技(消毒法、無菌操作、体位など)の習得
- ・穿頭術、開頭・閉頭術、脳内血腫や頭部外傷手術の助手

【2年次】

入院患者診療とともに、スタッフの指導の下で初診外来を担当し、基本的な脳神経外科疾患の初期診療と治療方針の決定が出来るようになる。また、単独で当直医診療を行う。

(手術)

- ・顕微鏡下手術に入る前の段階の基本的な手術手技を行えるようになる。
- ・局所麻酔手術(慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージ手術、定位的手術など)、シャント手術、頭蓋形成術などの術者
- ・開頭、閉頭手技の訓練、術者
- ・顕微鏡下手術の助手

【3年次】

病棟で専門医に準ずる医師として自ら患者を受け持つとともに、指導医として研修医、学生の教育に当たる。

- ・外来、入院ともに大部分を単独で行う。病棟運営を行う。
- ・脳卒中における血管内治療や手術的治療の適応についての判断を習得し、これら治療法の基本的手技を身に付ける。

(手術) 硬膜内操作、顕微鏡下手術を習得する。

- ・脳内血腫や頭部外傷手術の術者
- ・脳動脈瘤、脳動静脈奇形、頭蓋内-外バイパス、内頸動脈剥離術、脳腫瘍手術などの助手あるいは術者
- ・顕微鏡下手術のトレーニング

【4年次以降】

3年目に引き続いてさらに専門的知識と技能の習得に努めるとともに、単独で病棟全体を管理し、救急患者も含め具体的な初期治療から EBM など広い視野、知識に基づいた治療法選択、脳動脈瘤や脳腫瘍を含めた脳神経外科の手術全般を行う。

5. 認定施設

日本脳神経外科学会 専門医認定制度指定訓練場所

日本脳卒中学会 専門医認定制度研修教育病院